

第121回 日本内科学会総会・講演会

地域医療 シンポジウム 2024

～移行期ケア～

地域医療構想の進展に伴い、高度急性期、急性期、回復期、慢性期などそれぞれの医療機関毎の役割分担が進められています。

その結果、病院完結型医療から地域完結型医療への転換が大々的に図られており、一人の患者が病気の回復過程の中で一つの医療機関に留まることなく、様々な医療機関・福祉・介護施設間を移動する一連の流れ(Patient journey)が生じ、それぞれにケア移行が生じます。

そしてそのケア移行において情報の欠落、いわゆるケアの分断、が生じると再入院、救急外来受診、有害事象の発生に関連しており、退院時の患者教育、薬剤調整、紹介状などの多くの要因でケアの質の向上が重要であることがわかってきています。

今回の地域医療シンポジウムでは地域医療WGと専門医部会とのコラボにより、病院における医療と地域医療との接点に位置する移行期ケアをテーマとします。これからの医療に欠くことのできない移行期ケアについて考える良い機会になればと思います。

日時 2024.
4.13 [SAT] 15:00
17:00

場所 東京国際フォーラム
ホール B5 (1)
ハイブリッド開催 [現地開催・オンデマンド配信]

参加費

無料

ただし、第121回 講演会参加費のお支払いは必要となります

講演内容

司会

市立福知山市民病院 川島 篤志 / 守島医院 守島 亜季

1

内科医必携スキル“ケア移行”
～より良い患者ケア引き継ぎのための心得～
練馬光が丘病院 原田 拓

2

食べるを支えるケア移行
～医科歯科連携の新しいカタチ～
練馬光が丘病院 松本 朋弘

3

都市部extensivistのケア移行に
おける役割
板橋中央総合病院 安本 有佑

4

移行期ケアの好事例
～地方都市 基幹病院という視点で～
市立福知山市民病院 川島 篤志

5

総合討論